

2022年度近畿クラブリーグ戦

実 施 規 約

本大会は、全国クラブ大会の予選も兼ねておりますが、単に競技力を競うだけでなく、組織力・運営力などを含めたクラブの向上を目的と考えています。

各府県より選ばれたクラブが参加し、協力し、競い合う中で、関西協会内全てのクラブの目標・模範となるような大会を目指しています。

各々のクラブには、府県の代表としての自覚を持ち、各府県の代表である責務の実践をお願いします。

大会実施要項・規約を十分に理解し、参加クラブ全員で大会運営を行いましょう

大会実施規約

1. 試合毎に必要な選手以外のスタッフ

- (1) 大会運営及び試合進行を円滑に進めるため、参加各クラブは選手以外に必要なスタッフを、試合毎に下記の通り選出しなければならない。

① 試合責任者（自チーム登録必須）	1名	試合当日の全責任者
② 交替指示者（自チーム登録必須）	1名	試合責任者との兼務可
③セーフティーアシスタント（必須）	1名	有資格者
④記録係（必須）	1名	
⑤ボール係（必須）	2名	
⑤水係（必須2名）	3名以内	
⑥チームドクター（任意）	1名	

- (2) 上記スタッフは選手（リザーブ含む）との兼務は出来ない。またスタッフ間の兼務も出来ない。
(3) 試合責任者・交代指示者以外の上記スタッフは、レンタル等の手段により自クラブ以外の者を選出することができる。但し、クラブはその行動の全てについて責任を負うものとする。

2. 選手・スタッフの登録について

- (1) この大会の選手登録人数は2022年8月31日までに日本協会へ競技者個人登録を入金完了と「スポーツ安全保険」に加入している者の中から人数制限なく登録できる。
(2) 試合ごとの登録選手は23名以内とする。
(3) スタッフに関しては2022年8月31日現在、満18歳以上でかつラグビーの知識及びスタッフとしての役割を十分理解している者とし、試合運営に支障をきたす場合、はそのチームの責任とする。（日本協会個人登録・スポーツ安全保険の加入を条件とする）

3. 選手の交替・入替え（競技規則第3条等参照）

- (1) 選手の入替えは、「競技規則」の定めるところによる。
(2) 出血のための一時的交替は15分以内とし、それを越えた場合には正式交替として取扱う。
(3) コンタクトレンズ装用にかかる一時的交替は認めない。
(4) 交替、入替え、出血の手当てをする間の一時的交替は、必ずチームの「交替指示者」が、第3ARまたは競技役員に従って行い、直ちに大会本部に報告すること。交替指示者以外の者が交替を申し出ても受け付けない。
(5) レフリーの許可なく入退出した場合には、「競技規則」の不行跡として罰せられる。

4. 試合1週間前

- (1) 当番チームは、相手チームに連絡をしてグラウンド・キックオフ時間・ユニフォーム等の確認を行う。その後、担当レフリーに確認事項を連絡すること。試合前ミーティングの件も併せて連絡する。

ジャージの決定権について

- (1) ファーストジャージが同色または類似して見分けにくい場合は双方のセカンドジャージで行う。
- (2) 双方のセカンドジャージが同様に同色または類似の場合は、当番チームがファーストジャージを着用し、相手チームはセカンドジャージを着用すること。
- (3) 近年ジャージの色が酷似することが多いため、試合会場にはファーストジャージ、セカンドジャージともに持参すること。持参した上で、レフリーに判断をして貰う場合がある。

5. 試合当日

- (1) 試合開始2時間前を目安に集合することが、望ましい。
- (2) 到着後、直ちに競技役員に時間等の変更の有無、注意事項、60分前ミーティングの場所を確認し、当日のレフリー交通費を支払う。
- (3) メンバー表は、ボールペン書きで記入すること。登録メンバーの確認作業の為、試合開始70分前に当該試合の競技役員に提出すること。
- (4) 60分前ミーティング終了後のメンバー表の修正は、いかなる場合も認めない。

6. 60分試合前ミーティング、ドレスチェックについて

- (1) キックオフ60分前に「プレマッチ・ミーティング」を行う。ドレスチェック時に到着していない選手（リザーブ含む）、スタッフは大会へ出場できない。
- (2) 60分前プレマッチ・ミーティングの出席者は以下とする。
 - ①試合責任者 ②主将 ③交替指示者 ④セーフティーアシスタント（認定証持参） ⑤記録係 ⑥水係 ⑦ボール係 ⑧チームドクター（帯同しているチームのみ）
- (3) 60分前プレマッチ・ミーティングの際に、試合球（2球）とタッチフラッグ、セーフティーアシスタント、水係、ボール係用ビブスを準備する。
- (4) ドレスチェック時に、出場選手全員（リザーブ含む）の本人確認とドレス・装身具のチェックを行う。
- (5) ドレスチェックについて
 - ①ミーティングで指定された時間・場所に試合中に着用するスタイル（スパイク・サポーター・アンダーシャツ・ヘッドキャップなど持参）で集合し背番号順に1列に並ぶ。（30分前までに終了すること）

7. 競技時・ハーフタイム時の諸注意

- (1) 試合中チーム関係者は所定の場所に着席し、うろろろしないこと。ゲームの進行とともにタッチサイドを移動して応援したり、指示の声を出したりしないこと。
- (2) リザーブ選手は上着、トラックスーツを着用するなど、必ず競技中の選手と見分けがつく服装をすること。
- (3) 本大会のハーフタイムは基本的に10分以内とする。チームエリアに戻っても良い。
- (4) 当番チームの水係は、レフリーへ水、その他を持って行くこと。
- (5) グラウンドに水を持ち込む場合には安全な容器を用いること。（ビン類不可）
- (6) 芝生グラウンドの場合は、必ずキックティを用いること。キックティは試合前にボール係に預けておくこと。
- (7) キックオフ前、ノーサイド後の整列は行わない。

8. 安全対策、脳振盪の報告義務、その他

- (1) 大会参加に当たっては、あらかじめ健康診断を受診する等、プレーヤーの健康管理に充分配慮すること。特に、過去に頭部外傷や脳振盪を起こしたことのある者は、必ず脳波検査、CT等の検査を受診させること。
- (2) グラウンドで明らかな頭部打撲を認め、その受傷時に応答（意識状態）の異常、あるいは、身体活動の異常が認められるものは、すべて競技規則にいう「脳振盪」に該当するものと考えて退場させる。試合中に脳振盪で退場したプレーヤーが出た場合には、チーム責任者は所定の用紙によって報告の義務がある。
- (3) 脳振盪を起こした疑いのある、または、脳振盪と診断された選手は、必ず“IRB脳振盪

- ガイドライン”にある「段階的競技復帰プロトコル（G R T P）」に従って復帰すること。
- (4) セカンド・インパクト（過去の頭部打撲が後日発症）による重症事故の事例が報告されている。各自、各チームは「安全」が第一優先順位であることを銘記する。
 - (5) 日本協会の「競技者個人登録（登録者傷害見舞金制度）」、及び「スポーツ安全保険」（またそれに準ずる保険）の加入手続きに、漏れのないよう充分注意されたい。
 - (6) 保険証のコピー、選手の緊急連絡先等は、きちんと管理しておくこと。
 - (7) 診断書等に疑義があった場合は、当該チームの責任であり当委員会は責任を負わない。（代表者の責任となるので選手にその旨を伝えておくこと）

プレーヤーの服装・ジャージの規定・ラグビーマナー

1. 服装の統一

- (1) ジャージ、パンツ、ストッキングは、チーム全員統一されていること。不統一の選手、その他服装規定に反した選手は出場できない。
- (2) パンツのスリットライン、ストッキングの折り返しの不統一は認めない。チームマークのついたパンツを着用するチームは、全員が統一されていること。
- (3) スパイク／固定式のスタッド（一体形成型ゴム底のもの）であれば、鋭い形状の部分や鋭く隆起している部分がない限り、イボ状またはブレードタイプのものの着用を認める。取り外し式スタッドの場合には、ブレードタイプの着用は認めない。
- (4) アンダーシャツ／着用する場合にはジャージと同系色か、白、黒または紺色のものに限る。色は単色とし、チームで統一することが望ましい。
- (5) アンダーパンツ（スパッツ）／パンツより長いスパッツを着用する場合は、パンツと同色の物、または白、黒、紺色のものに限る。タイツタイプのアンダーパンツは着用できない。
- (6) サポーター類（膝・肘等）／着用する場合にはパンツと同色の物、または白、黒、紺に限る。
- (7) サポーター類を装用しなければならない程度にケガが完治していない場合には試合出場を避けること。
- (8) ヘッドギア（ヘッドキャップ）、ショルダーパット／色規制はないが、＜WRマーク＞の付いたもの以外は着用できない。ドレスチェックは型番などではなく、＜WRマーク＞の有無のみで判断する。
- (9) ジャージその他の用具に血液が付着した場合には、直ちに置き換えなければならない。ジャージの損傷、血液の付着に対処するためスペアージャージ（無番号で可）を準備すること。

2. ジャージのデザイン

- (1) 各チームは、ファーストジャージの他に、セカンドジャージ（いずれも背番号等の欠番のないもの一式）を準備すること。
- (2) ジャージには背番号を表示する。1～15番は先発メンバーとし、16～23番をリザーブメンバーが着用する。
- (3) ジャージに胸マークを入れる場合には、全員が統一されていること。不統一なものや、取れたもの等、一切認めない。また、破れやほころびは補修し洗濯された清潔なものであること。
- (4) 背番号を縫い付けた場合には、四隅だけでなくしっかりとジャージに縫い付けて、試合中取れないようにすること。また、縫い付けとプリントの混在は認めない。
- (5) 広告の入ったジャージ、パンツ、トラックスーツ等を着用する場合には、チームから競技場に対して広告料を支払う義務が生ずる場合があることを、あらかじめ承知置き頂きたい。
- (6) 詳細は、関西ラグビーフットボール協会年鑑内のプレーヤーの服装に関する規定、通達を参照のこと。

3. プレーヤーの着こなし

- (1) 参加選手は近畿のラグーマンの代表としてふさわしい服装、身だしなみを心がける。
- (2) 選手は以下の着こなしを遵守すること。レフリーや競技委員から指摘される前に、各自、各チームで直すこと。
 - ① ストッキングはきちんと上げる。試合中にずり落ちないようにテープ等できちんと止めること。
 - ② パンツの上に出たジャージは、常に注意してパンツの中に入れる。
 - ③ ジャージのエリを内側へ折り込まない。
 - ④ ジャージのソデを極端にたくし上げたり、テープで止めたりしない。
- (3) プレマッチ・ミーティング後に、レフリー及び競技委員がドレスチェック（服装、スタッド等の検査）を行う。選手は、レフリーと競技委員の指示に従うこと。
- (4) ドレスチェックで不許可となったものを競技区域で着用していた場合には、その時点で「競技規則」第4条5（C）により退場となる。
- (5) 服装規定に関して不明な点は事前に大会実行委員会まで問い合わせをする等、当日のドレスチェックの際にトラブルが起きないように、事前の徹底、再確認を充分しておくこと。

4. ラグビーマナー

- (1) レフリーへの批判、選手への感情的発言・暴言・セルフジャッジ・・・等々、非紳士的行為と言動は厳禁する。選手以外の監督・コーチ・その他スタッフ、応援団も同様に禁ずる。試合中は静かにプレーし、観戦する。この日グラウンドに集まった全てのラグビー仲間への敬意と尊敬の念を忘れないこと。
- (2) 代表者会議や会場への往復など、本大会の行事にはスポーツマンらしい服装で臨むこと。
- (3) 選手はなるべく公共交通期間を利用して来場し、往復途上の事故等による遅れのないように心がける。
- (4) 更衣は定められた場所で行い、また、ロッカーエリア外には裸体で出てはならない。更衣室の後始末は、各チームで責任を持ってきちんと行うこと。たとえ自チームが汚したものでない場合でも清掃し、清潔保持に努めること。
- (5) 大会会場（グラウンド内、更衣室とグラウンドとの往復等を含む）では裸体で歩かないこと。公共空間でのマナー保持には充分注意すること。
- (6) ゴミ（グラウンド内ばかりでなく更衣室のゴミも含む）は、会場内のゴミ箱に捨てず、必ず各自、各チームで持ちかえること。チームはゴミ袋を用意し、全てのゴミを持ちかえること。
- (7) 会場内は、グラウンド、更衣室、交歓会会場、駐車場、その周辺区域を含めて全面禁煙とする。（競技場における指定許可場所を除く）特にジャージ姿のままでの喫煙は厳禁する。
- (8) チームのミーティングは、アフターマッチミーティング、交歓会等の公式行事が終了してから行うこと。

セーフティーアシスタント・水係

- (1) 各チームは有資格のセーフティーアシスタント（認定証を持参）を必ず帯同して用意すること。リザーブ選手、スタッフとの兼任を禁ずる。無線機を使用する場合には必ず周波数を大会本部に申告し、レフリーと混信が生じないように注意すること。
- (2) 試合前にレフリー、アシスタントレフリー、マッチドクター等と十分な打ち合わせをし、負傷者発生の場合でゲームの中断を求める場合に備えてレフリー及び大会役員と「シグナル」の確認を行い、適切な行動がとれること。
- (3) セーフティーアシスタントの他に水係（3名以内）がグラウンドに入ることができる。無線機を使用する場合には必ず周波数を大会本部に申告し、レフリーと混信が生じないように注意すること。
- (4) セーフティーアシスタント、水係は、自チームの応援をしたり、指示の声を出したりして

はならない。コーチが兼任することを禁ずる。コーチとは登録上のコーチならびにコーチングスタッフ全員を指し、彼らの指示を伝達する者も含まれる。これらの不行跡は、競技区域からの退場の対象となる。

- (5) セーフティーアシスタント、水係は、自チーム、相手チームのジャージと区別できる色のビブスを準備し、着用しなければならない。

当番チームの役割／ジャージが同系色の場合の措置

- (1) 当番チームの役割／当番チームは、相手チームと連絡を取り合い、試合の1週間前までに、レフリーに確認の連絡を入れること。連絡事項は、期日、キックオフ時間、場所の他に、当日両チームが着用するジャージの色を必ず通知すること。
- (2) アフターマッチファンクションを行う場合、当番チームが司会進行に責任を持つこと。
- (3) ジャージが類似した場合／ジャージが同系色の場合には、以下の順序で着用するジャージを決定する。チーム間で勝手に決めないこと。
- ①ファーストジャージが類似した場合には、両チームともセカンドジャージ。
 - ②セカンドジャージが類似した場合には、当番チームがファーストジャージ、相手チームがセカンドジャージ。
 - ③それでも類似した場合には、当番チームがセカンドジャージ、相手チームがファーストジャージ。
 - ④それでも決まらない場合には、大会実行委員会が指定した方法で決める。
- (6) 両チームで話し合ったジャージ色は、必ず大会本部の承認を得ること。